

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	明日葉保育園 長津田園
経営主体(法人等)	葉隠勇進株式会社
対象サービス	保育所
事業所住所	〒226-0027 横浜市緑区長津田1丁目18-11
設立年月日	平成24年4月1日
評価実施期間	6,5か月
公表年月	平成25年6月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特徴】</p> <p>1. 立地</p> <ul style="list-style-type: none"> 明日葉保育園長津田園は、24年4月1日開園で、田園都市線・横浜線の長津田駅から徒歩10分の、緑豊かな小高い戸建住宅地の中に位置し、日当たりや見晴らしが良く、園からはJR横浜線や国道246号線がよく見える。散歩では、電車を見に出かけたり近隣の公園や田園風景豊かな田奈中学校周辺に行っている。 <p>2. 特色</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置法人は給食事業から発展した葉隠勇進株式会社で、現在は0歳児から4歳児までの42名（定員60名）が入所しており、食育に力を注いでいるほか、専任講師によるリトミックを行っている。 建物は鉄骨造2階建、敷地面積714㎡、建築面積264㎡で、保育室以外にも小スペースや、子どもがのぞきこめる低い位置に小窓が設置され、小高い築山や砂場がある園庭には2階保育室から階段で直接出ることができる。 本園は法人として初めての認可保育所で、開所年度ではあるが積極的に第三者評価を受審し、園のサービス向上に取り組んでいる。 <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 楽しく遊べるおもちゃの配置</p> <p>子どもたちは、朝夕の合同保育の時間は、異年齢で1階の多目的室で遊んでいる。敷物を敷いた一角には、子どもが手に取って遊べる低い棚をおもちゃを置き、画用紙やクレヨン、クレパスなどはボックスに分類している。子どもたちは、ブロックを組み合わせたり電車ごっこをしたり、職員がアイデアを出しあって古着を再生して制作したバッグやエプロン、スカートやおんぶひもを持って、職員に人形をおぶわせてもらったり抱いてあやしなながら、家族遊びを楽しんでいる。</p> <p>また、特に0歳児保育室では、音のするおもちゃや指の発達を促す玩具、丁寧につくられた職員手作りの玩具を子どもが手に取りやすい位置に置き、子どもたちはおもちゃ箱をのぞいたり手に取ったり、遊んだ後は職員に支援されながら自分で片づけている。</p>	

2. 園舎内外の環境設定

1階には床が数段下がった絵本コーナーとそれに続く小部屋、2階階段横には滑り台がある小スペースがある。また、保育室には子どもがのぞける高さに小窓があり、他の保育室の様子や、電車が走っている様子も見ることができる。

2階の出入り口の階段から園庭に直接出られる構造になっており、園庭につくられた築山では、子どもたちがよじ登ったり滑り下りて歓声を上げている。古タイヤを利用した遊具や砂場も設置され、日々戸外遊びを楽しんでいる。

3. 子どもの気持ちに寄り添う職員の働きかけ

職員は昼礼を利用して全員の子どもの様子を報告し、また、日誌にすべての子どもの1日の様子を記載し、全職員で共有している。

利用者家族アンケートでは「子どもたちが大切にされているか」「子どもが園生活を楽しんでいるか」の両項目は96%の満足度(回答の満足・どちらかと言えば満足の合計)で、子どもに対する職員の対応について保護者から高い評価を得ている。調査当日は、機嫌が悪くぐずって散歩に出るのを嫌がっていた子には、一人の職員が子どもが納得するまで丁寧に話を聞いて、その子のペースで散歩に参加できるように支援している場面が観察された。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 苦情・要望の収集と整理

保護者からの日常的な苦情・要望については、昼ミーティングなどで話し合っていますが、記録保存がなされていません。保護者からの意見・要望・苦情等は保育サービスの質の向上に役立つものであり、積極的な収集に努め、細かい内容でも記録して、全職員で再発防止に取り組むことが期待されます。

2. 保護者への保育情報提供の仕組み作り

現在、保育参観・保育参加は行っていません。日常の情報交換と共に、園での子どもの成長の様子を共有したり、クラスの保育方針などを保護者に伝えることも必要です。次年度計画の中でその実施を検討しているとのことなので、参加できなかった保護者へのフォロー体制も含む仕組み作りが期待されます。

3. 運営方針等の理解を深める全職員参加の研修体制

保育理念や保育課程、各種マニュアルの共有については、今年度開園のため十分な取り組みがなされていません。年度後半に全職員で重点項目については研修を実施しましたが、定期的に項目を決めて園内研修を行うなど、全職員で園の方針を理解して日々の保育にあたることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・保育理念は「子どもの明日を育み、今日を支える」とし、園目標は「自分も人も尊重できる子ども・自分で考えて正しいことを学びとれる子ども・心も体もすこやかな子ども・思いを適切に表現できる子ども」であり、それらは、利用者を尊重したものとなっている。
- ・子どもの人格を尊重する保育については、園長が見ていて気になるときはその都度伝えている。また、休憩時の話し合いや、日常保育の中で子どもの対応について注意しあえる職員体制ができています。
- ・日々の保育では子どもと目線を合わせ、語りかけたり丁寧に話を聞いている。
- ・子どもが一人になりたいときは、空き保育室や壁で仕切った遊びの空間を使用している。また、パーティションの使用やマットを敷く等のことで子

	<p>どもは「自分の場所」として捉え、落ち着いて過ごすことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理規定があり、個人情報に関する記録はすべて、事務室に施錠保管している。電子化された情報についてはパスワードの設定や持ち出し禁止にするなどの方法で保管・管理している。 ・整列は性別で分けず、名簿は生年月日順にしている。また、衣装を使っただのごっこ遊びでは個々の子どもが示す興味を尊重して決めている。 ・保育課程の「体罰について」欄に体罰不用の子育て支援などを明記し、入園のしおりにオレンジリボンのイラストを入れるなど、虐待防止の周知に努めている。 ・虐待の定義を記載したマニュアルがあり、設置法人、都筑区福祉保健センターこども家庭支援課、北部児童相談所に連絡し相談する体制がある。送迎時などを利用し保護者が話かけやすい雰囲気を作ったり、日々の子どもの観察を通して、虐待の早期発見を心がけている。 ・子ども同士のけんかでは、言葉でわかる子には理由をに聞き、先に手が出てしまう小さい子の場合はすぐに止め、子どもの気持ちを代弁して謝りの言葉などを教えている。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育室や1階のホールに低い棚を設置し、既成や手作りのおもちゃ、画用紙やクレヨン、クレパスをボックスに分類し、子どもたちが自由に選んで遊べるようになっている。また、折り紙や牛乳パック、ラップなど廃材、空き箱を棚に収納し、それらを子どもたちはいつでも使用でき、必要に応じてはさみやテープなどの道具も職員が用意している。 ・各保育室は、マットやパーテーションでコーナーに分けるなど、子どもたちが落ち着いて遊べる環境を工夫している。 ・子どもの発想から遊びが広がっていくことを職員は大切に考え、支援している。子どもが遊びに熱中している時は柔軟に時間を変更できるデイリープログラムになっている。 ・おにごっこなどルールのある遊びを取り入れ、遊びの中で自然に社会性を身につけられるよう工夫している。 ・園庭の畑で、ナス、サツマイモなどを栽培し、収穫した野菜はクッキング保育や給食に取り入れている。 ・天気の良い日には近所を散歩したり公園に出かけ、近所の人たちと挨拶を交わしたり、どんぐり拾いや田んぼにおたまじゃくしを探しに行くなど、積極的に戸外活動を取り入れている。 ・異年齢交流は、散歩で3～4歳児が1歳児と手をつないだり、ホールで全員で食事する機会を設けている。 ・子どもに対する態度や言葉遣いについて職員会議や昼礼で話し合い、子どもの話に耳を傾け、丁寧に接することで信頼関係を構築している。 ・園庭には大きな築山や砂場、古タイヤを利用した遊具が設置され、また、公園の特徴をふまえて散歩の行き先を選択するなど健康増進に配慮している。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念・保育目標は玄関に掲示し、保育理念、保育所保育指針に基づき、保護者の就労状況や地域の環境も考慮して、子ども本位に作成している。 ・子どもの意見や要望は、子どもの様子を観察して気持ちや思いを汲み取り、保育課程に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画、週案を作成している。指導計画の作成には、子どもの発想や意見を取り入れて変更したり興味ある遊びを継続して取り入れるなど、柔軟性を持たせている。 ・入園前面接には子ども同伴で来園してもらい、子どもの様子などを観察し、また、園長、担任が保護者と家庭状況調査票などの資料をもとに生育歴や就

労予定、家庭状況、子育てで心配なことなどを聞き、食物アレルギーなど配慮が必要な場合には栄養士も同席している。

- 子どもの情報はファイリングして事務所に保管し、全職員が必要に応じていつでも見ることができ、日常の保育に活かしている。

- 園児が少人数であるため全職員が全員の子どもを把握しており、子どもが不安な時は抱っこやおんぶするなど、どの職員も対応できている。

- 指導計画は担任・担当が意見交換して週案や月間指導計画の振り返りをし、子どもの発達状況に応じて見直している。

- 保護者の意向は、送迎時や連絡ノートで聞き、離乳食やトイレトレーニングなどは家庭の意向を丁寧に聞いて、指導計画に反映している。

- 建物の構造は採光に配慮しており、園庭に面した出入り口は全面ガラス張りで、カーテンで陽光を調整している。保育室間の音については、活動内容や歌の時間をずらすなど、騒音にならないように配慮している。

- 1階の0歳児保育室に温水シャワーと沐浴設備が、2階トイレに個室の温水シャワー設備があり、汚れや汗をかいた時に利用し、使用の都度、清掃を行い、清潔を保っている。2階のシャワー室は、戸が設置された個室になっており、他の目に触れずに使用できる。

- 各保育室は、背の低い手作りの仕切りやマットで区切り、小集団で活動できるようにしている。

- 1階のホールが、常に異年齢で交流できる空間となっており、朝と夕の合同保育で利用している。

- 0～2歳児の個別指導計画を作成し、毎月クラス担任・担当が、すべての子どもの様子が毎日記載された日誌の状況も参考にして子どもの発達状況に応じて柔軟に変更し、重要部分の見直しについては、保護者との了承を得ている。

- 生育歴や家庭の状況などを生活状況調査票にまとめ、入園後の成長発達は、児童票・健康調査票・身体測定表に記入し、事務室書庫に施錠保管し、必要に応じて社員はいつでも見ることができる。

- 特に配慮を要する子を積極的に受け入れ、職員会議で個別ケースについて話し合い、記録している。

- 入園時にかかりつけ医の指示書を提出してもらい、食物アレルギーの子どもの保護者とは連携を密にして、食物アレルギー対応マニュアルや「食物アレルギー申請書使用方法」に基づいて、見た目や栄養に違いがないように配慮している。

- アレルギー児対応については、除去食一覧表を作成し、専用トレイに名前とアレルギーを明記して、栄養士から職員が受け取る際に口頭で確認してから代替食や除去食を提供している。

- 要望・苦情の受付担当者は園長で、苦情や意見申し出窓口として、設置法人子育て支援事業部、第三者委員、横浜市福祉調整委員会、かながわ運営適正化委員会の連絡先を保護者に周知している。意見箱を玄関に設置している。

- 設置法人に苦情解決マニュアルがあり、苦情は、苦情対応フローチャートに基づいて対応する仕組みがある。

- 緑区こども家庭支援課とは日常的に連絡を取り合っており、要望や苦情解決に向けて相談できる体制がある。

4.地域との交流・連携

- 夏祭り開催のお知らせを園の近隣に配布し2家族の来園があった。また、1月に実施した餅つきでは、臼と杵を借用した近隣の自治会から3名の参加があり、手伝いの協力も得ることができた。

- 田奈中学校施設借用の申し出を行った際、同中学から要請があり、授業の

	<p>一環として取り組む職業体験に生徒3名を9月に受け入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の会議には園長が出席して情報交換に努めるとともに交流を図っている。 ・11月に開催された「みどりっ子まつり（会場：長津田保育園）」に参加して他園と交流を図るとともに、来園者に園のパンフレットを配布した。 ・給食の食材は地域との交流を図るために地域の商店街から購入するようにしている。 ・散歩時の挨拶やマナーについては職員が手本を示し、地域住民との交流に努めている。また、散歩先では他の保育園との交流も多く、声を掛け合いながら楽しく遊べる配慮をしている。 ・園長が緑区の幼保小の教育交流会や私立保育園長会などに参加して情報を得ている。 ・地域での子育てを支援するサービスとして一時保育を実施している。継続的や単発の利用者を受け入れている。 ・医療機関、北部児童相談所、緑区役所、北部地域療育センター等必要な関係機関等との連携は園長が担当しており、連絡先をリストにして事務所に保管し、職員は誰でも閲覧できるようになっている。 ・現在は対象児がないため日常的な連携は取っていないが、気になる子の対応を学ぶため、北部地域療育センターと密に連絡を取り、巡回訪問を受けて対応策の助言を得ている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が開設するホームページで運営理念、給食への取組姿勢、園行事などについての情報を、写真を交えて提供している。 ・保育園のサービス内容等を掲載したパンフレットがあり、緑区の「みどりっ子まつり」の際に配布している。 ・利用希望者の電話問い合わせには見学ができることを伝え、見学には園長が「入園のご案内」を使って保育方針を説明している。 ・就業規則があり、法令順守・服務規程を明文化し、全職員に周知している。 ・他施設での不正事案などの情報は、設置法人より随時連絡があり、職員会議で話し合いの場を設けて、職員のモラルアップを図っている。 ・事業経営に影響のある情報の収集・分析は、設置法人が行い、経営する5保育園の園長が定期的に会議を開催し、法人が収集した情報を話し合い、園に持ち帰って職員に報告している。 ・園運営上の重要事項や、第三者評価受審で浮かびあがった重要課題は、職員会議で説明して全職員に周知し、開設園として課題は多いが、園長をはじめとして、園全体で積極的に改善に取り組んでいる。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っている。 ・園長が「平成24年度年間研修計画」を作成し、常勤・非常勤職員共に内部や外部の研修に参加している。 ・外部研修として、「気になる子の理解と対応、わらべうたを学ぶ」等に参加し、研修時受講後はレポートを作成し、今までに2回報告会を行い、研修の成果を発表し、保育に活かしている。 ・非常勤職員にも必要なマニュアルを配付し、職員会議や園長会議などの必要事項は文書または口頭で知らせ、文書には確認サインをしている。 ・主任やクラスリーダーを非常勤職員担当と決め、コミュニケーションを取る中で意見要望を聞き、非常勤職員が円滑に業務にあたるように努めている。 ・職員は日々の保育を振り返り、クラスの職員で話し合ったり、園長や副園

長の助言を得ている。園の自己評価は、第三者評価を受審して、非常勤職員も含め全員で自己評価に取り組んだ。

- 園長、副園長、主任が横浜市立や株式会社経営の他園を見学し、サービス事例を参考にして、職員会議で話し合い実践している。

- 職員会議や、第三者評価を受ける過程で園の課題を明確にし、全職員で第三者評価の評価項目を活用して運営理念や保育課程に添って各自が自己評価した後、園の自己評価としてまとめている。

- 園長は可能な限り現場職員に権限を委譲し、緊急時園長不在時には副園長、主任ほか、職員の判断に任せて、事後、園長に報告することとしている。

- 園長は、職員会議や職員面談で、改善課題や業務改善の提案、満足度、要望を聞き、運営に活かしている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

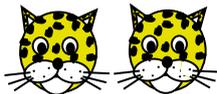
評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「子どもの明日を育み、今日を支える」とし、園目標は「自分も人も尊重できる子ども・自分で考えて正しいことを学びとれる子ども・心も体もすこやかな子ども・思いを適切に表現できる子ども」であり、それらは、利用者を尊重したものとなっている。 ・保育理念・保育目標は玄関に掲示し、毎日昼礼時に唱和して確認するほか、園長が職員会議や日常の保育の中で基本姿勢を職員に示し、理解の浸透を図っている。 ・保育課程は、保育理念、保育所保育指針に基づき、保護者の就労状況や地域の環境も考慮して、子ども本位に作成している。 ・保育課程に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画、週案を作成している。 ・指導計画の作成には、子どもの発想や意見を取り入れて変更したり興味ある遊びを継続して取り入れるなど、柔軟性を持たせている。 ・子どもの意見や要望は、子どもの様子を観察して気持ちや思いを汲み取り、成長や個性に応じて説明して納得できるまで丁寧に話している。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前面接には子ども同伴で来園してもらい、子どもの様子などを観察し、また、園長、担任が保護者と家庭状況調査票などの資料をもとに生育歴や就労予定、家庭状況、子育てで心配なことなどを聞き、食物アレルギーなど配慮の必要な場合には栄養士も同席している。 ・子どもの情報はファイリングして事務所に施錠保管し、全職員が必要に応じていつでも見ることができ、日常の保育に活かしている。 ・見学や入園前面接の際に慣らし保育の必要性を説明し、短時間から始めているが、保護者の就業状況や集団生活の経験など、個々の状況に応じて対応している。 ・0、1児の新入園児の主担当は、子どもと職員の相性などで担当を決め、子どもが落ち着くものの持ち込みには柔軟に対応している。 ・0～2歳児は、連絡ノートで家庭と園での子どもの様子をそれぞれ記入して情報交換している、3歳児以上は必要に応じて使用している。 ・園児が少人数であるため全職員が全員の子どもの把握しており、子どもが不安な時は抱っこやおんぶするなど、どの職員も対応できている。 ・指導計画は担任・担当が意見交換して週案や月間指導計画の振り返りをし、子どもの発達状況に応じて見直している。 ・保護者の意向は、送迎時や連絡ノートで聞き、離乳食やトイレトレーニングなどは家庭の意向を丁寧に聞いて、指導計画に反映している。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・日々マニュアルに基づいて清掃してチェック表で確認し、園庭は掃き掃除、砂場は毎週1回消毒している。
 - ・各保育室に空気清浄機、扇風機を備えて空気を循環させたり適宜換気し、各保育室の温湿度計に基づいて、温湿度管理をしている。
 - ・建物の構造は園庭に面した出入り口は全面ガラス張りで採光に配慮しており、カーテンで陽光を調整している。
 - ・保育室間の音については、活動内容や歌の時間をずらすなど、騒音にならないように配慮している。
 - ・1階の0歳児保育室に温水シャワーと沐浴設備が、2階トイレに個室の温水シャワー設備があり、汚れや汗をかいた時に利用し、使用の都度、清掃を行い、清潔に保たれている。
 - ・各保育室は、背の低い手作りの仕切りやマットで区切り、小集団で遊ぶことができるようになっている。
 - ・0～2歳児は食べる・寝る空間は同室を仕切って行い、3～4歳児は、ランチルームで食事したり、保育室で食事後、空き部屋に移動して午睡している。
 - ・1階のホールが、常に異年齢で交流できる空間となっており、朝と夕の合同保育で利用している。
- <工夫している事項>
- ・2階のシャワー室は、入り口に戸が設置された個室になっており、他の目に触れずに使用できるようになっている。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児の個別指導計画を作成し、毎月クラス担任・担当が、すべての子どもの様子が毎日記載された日誌の状況も参考にして子どもの発達状況に応じて柔軟に変更し、重要部分の見直しについては、保護者の了承を得ている。
 - ・生育歴や家庭の状況などを把握し、生活状況調査票にまとめ、入園後の成長発達は、児童票・健康調査票・身体測定表に記入し、事務室書庫に施錠保管し、必要に応じて職員はいつでも見ることができる。
- <コメント・提言>
- ・子どもの記録は、職員を非常勤を含めた保育に携わるすべての職員で共有することが望まれます。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・特に配慮を要する子を積極的に受け入れ、職員会議で個別ケースについて話し合い、記録している。

・職員は、北部地域療育センターの巡回指導や障害児研修の報告や報告書の回覧で情報を共有しているが、障がい児の在籍はない。

・虐待の定義を記載したマニュアルがあり、設置法人、緑区子ども家庭支援課、北部児童相談所に相談できる体制がある。送迎時などを利用し保護者が話しかけやすい雰囲気を作ったり、日々の子どもの観察を通して、虐待の防止や早期発見に努めている。

・入園時にかかりつけ医の指示書を提出してもらい、食物アレルギーの子どもの保護者とは連携を密にして、食物アレルギー対応マニュアルに基づいて、見た目や栄養に違いがないように配慮している。

・除去食一覧表を作成し、提供時は専用トレイに名前とアレルギーを明記して代替食や除去食を提供し、栄養士から職員が受け取る際に口頭で確認している。

・外国籍の保護者には、入園児に文化や生活習慣の違いで配慮すべきことなどを確認して対応している。

<工夫している事項>

・保育課程の「体罰について」欄に体罰不用の子育て支援などを明記し、入園のしおりにオレンジリボンのイラストを入れるなど、虐待防止の周知に努めている。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



・要望・苦情の受付担当者は園長で、苦情や意見申し出窓口として、設置法人子育て支援事業部、第三者委員、横浜市福祉調整委員会、かながわ運営適正化委員会の連絡先を保護者に周知している。意見箱を玄関に設置している。

・保護者からは、行事後のアンケートや、日常的に送迎時の会話から意見、要望の汲み取りに努め、子どもたちからは、遊びの中での話や1対1で接する機会に意見や要望を汲み取っている。

・設置法人に苦情解決マニュアルがあり、苦情は、苦情対応フローチャートに基づいて対応する仕組みがある。

・緑区子ども家庭支援課とは日常的に連絡を取り合っており、要望や苦情解決に向けて相談できる体制がある。

<工夫している事項>

・保護者に第三者委員が身近に感じられるように、委員を入園式に招待し、保護者に紹介した。

<コメント・提言>

・現在要望や苦情の記録がありません。些細な事でも全職員に報告して園全体で解決に取り組み、記録に残して事後に活かすことが望まれます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・各保育室や1階のホールに低い玩具を置く棚があり、木製や布のおもちゃを多く配置し、画用紙やクレヨン、クレパスはボックスに分類し、子どもたちが自由に選んで遊べるようになっている。折り紙や牛乳パック、ラップなど廃材、空き箱を子どもたちはいつでも使用でき、必要に応じてはさみやテープなどの道具も職員が用意している。・各保育室は、マットやパーテーションでコーナーに分けるなど、子どもたちが落ち着いて遊べる環境を工夫している。・子どもが遊びに熱中している時は柔軟に時間を変更できるデイリープログラムになっている。・子どもの発想から遊びが広がっていくことを職員は大切に考え、支援している。・おにごっこなどルールのある遊びを取り入れ、遊びの中で自然に社会性を身につけられるよう工夫している。・園庭の畑で、ナス、サツマイモなどを栽培し、収穫した野菜はクッキング保育や給食に取り入れている。・天気の良い日には近所を散歩したり公園に出かけ、近所の人たちと挨拶を交わしたり、どんぐり拾いや田んぼにおたまじゃくしを探しに行くなど、積極的に戸外活動を取り入れている。・子ども同士のけんかでは、子どもの気持ちを代弁して、謝りの言葉などを教えている。・異年齢交流は、散歩3～4歳児が1歳児と手をつないだり、ホールで全員で食事する機会を設けている。・子どもに対する態度や言葉遣いについて職員会議や昼礼で話し合い、子どもの話に耳を傾け、丁寧に接することで信頼関係を構築している。・園庭には大きな築山や砂場、古タイヤを利用した遊具が設置され、また、公園の特徴をふまえて散歩の行き先を選択するなど健康増進に配慮している。

II-1 保育内容[生活]



- ・職員は栄養士と相談しながら食事の量を調整したり、好き嫌いが減ることに配慮しているが、無理強いせず、嫌いなおかずが残っていてもおかわりができることにしている。
- ・授乳は保護者と連携を密にして、抱きながら、子どものペースを尊重して与えている。
- ・3歳児からクッキング保育、配膳の手伝いや献立を読み上げる当番活動を行い、食への関心を高めている。
- ・毎月「こいのぼり」「節分の鬼の顔」など季節感のある献立や楽しい盛り付けを工夫し、月1回は郷土料理の日として地方の食文化を紹介している。
- ・食材は国産を中心とし、食器については強化磁器を使用している。
- ・栄養士はほぼ毎日保育室を回り、子どもに声掛けしながら喫食状況を観察・記録し、給食会議で話し合い、味付けや切り方、盛り付けなど調理方法を工夫している。
- ・献立表を前月末に配付し、毎月発行の「給食だより」に献立の人気メニューのレシピや季節の食材情報等を記載している。
- ・午睡時はカーテンをひき、安心して眠れるように、職員が子守唄を口ずさんだり、背中をトントンしている。
- ・乳幼児突然死症候群予防のため、0歳児は5分おき、1歳児は10分おきに呼吸チェックを行い、記録している。
- ・排泄は、散歩前や食後などに一齐に声かけするほか、行きたい時にトイレに行っている。
- ・トイレトレーニングは、個々の排泄や排便の状況を受け入れ票に記録し、家庭と連携して対応している。
- ・排泄に失敗した子は自尊心を傷つけないようにさりげなくトイレに誘うなど、全職員で子どもの気持ちを尊重することなど対応の仕方を話し合っている。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・子どもの健康管理は「保育業務マニュアル」に基づいて把握し、既往症は、入園時の提出書類や連絡帳、口頭による連絡で把握し、健康調査票に記録し、昼礼と連絡ノートで全職員に周知している。
- ・園での子どもの状態は、職員連絡ノートに記入して担任及び遅番職員に伝え、降園時に保護者に伝えている。
- ・食後の歯磨きは、2歳児以上から落ち着いて歯磨きができるよう専用のいすを置き、職員が仕上げ磨きを行っている。0～1歳児では食後に麦茶を飲み、口腔の清潔を保っている。
- ・健康記録表に、毎月の身長体重の測定、年2回の嘱託医による内科健診、年1回の歯科健診の結果を記録している。
- ・健康診断の結果は口頭で、ぎょう虫検査・3歳児尿検査は結果表で保護者に伝えている。
- ・子どもの健康については、嘱託医と日常的に相談できる関係にあり、感染症予防や流行、薬についてなどの相談をしている。
- ・感染症・食中毒対応マニュアルがあり、入園時に配付する「入園のしおり」で、感染症の内容、通園停止期間、登園許可証の提出などを説明している。
- ・保育中に発症した場合は速やかに保護者に連絡して子どもの状態を伝え、お迎えが来るまでは事務室で対応している。
- ・感染症の発症あるいは疑わしい症状が見られた時は、玄関に掲示して保護者に知らせている。
- ・行政や設置法人からFAX等で得た感染症に関する最新情報は、昼礼や回覧版で職員に周知している。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・「施設設備清掃マニュアル」があり、2月に本社で全職員参加によるマニュアル研修を行い、同時に見直しを行った。
- ・マニュアルに基づき、毎朝、清掃を行っている。また、おもちゃ等については午睡時、土曜日に拭く・消毒をするなどして清潔を保っている。また、各保育室には消毒液を常備して使用している。

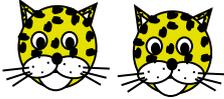
II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



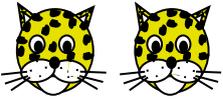
- ・戸棚、保管庫等については予め地震等を想定し、建築時に作り付けにしている。
 - ・「危機管理マニュアル」を事務所に置き、災害時のフローチャートと不審者対応時の緊急連絡フローを事務所に掲示し、全職員に周知している。
 - ・火災や地震を想定し、避難・通報・消火を入れた防災訓練を毎月1回実施し、終了後には、ケガや事故、不審者への対応などを検討している。
 - ・日本赤十字社の幼児安全法支援員講習に常勤職員9名が参加して資格を取得している。
 - ・保育中のケガは軽傷であっても保護者に必ず口頭で状況を伝え、ケガの状況や対応についてはアクシデントレポートに記録し、再発防止対策時の資料としている。
 - ・警備会社と契約し、玄関はオートロックで不審者侵入対策を講じ、保護者や外部者にはインターホンとモニターで来訪者を確認してから開けている。
 - ・解錠に使用するICカードは限られた職員が保持することとしており、ICカードの電子情報の漏えいや紛失等のリスク軽減を図っている。
 - ・警備会社と契約した不審者等侵入時の緊急通報システムがある。
- <コメント・提言>
- ・不審者情報が得られるネットワーク確保のために、自治会への加入、緑区防犯情報メールの採用、警察署との連携が期待されます。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格を尊重する保育については、園長が見て気になるときはその都度指導している。また、休憩時の話し合いや、日常保育の中で子どもの対応について注意しあえる職員体制ができています。 ・日々の保育では子どもと目線を合わせ、乳児には語りかけ、幼児には丁寧に話をしたり聞いたりしている。 ・子どもが一人になりたいときは、空き保育室や壁で仕切った遊びの空間を使用している。また、パーテーションの使用やマットを敷く等のことでも子どもは「自分の場所」として捉え、落ち着いて過ごすことができています。 ・個人情報管理規定があり、個人情報に関する記録はすべて、事務室に施錠保管している。電子化された情報についてはパスワードの設定や持ち出し禁止にするなどの方法で保管・管理している。 ・整列は性別で分けず、出席簿は生年月日順にしている。また、衣装を使ってのごっこ遊びでは個々の子どもが示す興味を尊重して決めている。昼食時に当番が行うテーブル拭きや「いただきます」などの進行などについても性別による役割区別は行っていない。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親・母親の役割を固定的に捉えたり表現をしないことを職員同士で話し合う場や研修の機会を定期的に設ける仕組みづくりが期待されます。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念や保育目標等を保護者の目に触れやすい玄関に掲示しホームページにも掲載している。また、入園説明時に配付する「入園のしおり」に園の基本方針を記載しており、入園に係る事項と合わせて保護者に説明している。さらに、月々の園だよりではクラス目標を掲載している。 ・保護者に保育の基本方針を伝える場として4月にクラス懇談会を設けている。また行事の後にアンケートを実施して、保護者の保育方針についての理解度も聞き取っている。 ・0～2歳児は連絡帳で家庭と園の情報を交換するとともに、全園児の前日の降園後や朝の子どもの様子を確認して「受け入れ表」に記録して職員全員が把握できるようにしている。また、3～4歳児クラス全体の様子はクラスのホワイトボードで伝えている。 ・年間行事予定表を4月に配布して保護者が行事に参加しやすいよう配慮している。 ・保護者の予定を考慮した時間設定をして個人面談を2月に行っている。保護者からの相談には、他の子どもや保護者に相談内容が漏れないように、空いている保育室や事務室で行っている。 ・保護者の自主的な活動への援助や意見交換は行っていない。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者へは、基本方針の周知や情報提供・交換を密に行っていますが、保護者の自主的な活動支援を行っていないため、評価のヒョウちゃんマークは1個にとどまっています。保護者組織立ち上げを支援し、園運営等について情報交換を行うことが望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>・園長が緑区の幼保小の教育交流会や私立保育園長会などに参加して情報を得ている。</p> <p>・地域での子育てを支援するサービスとして一時保育を実施している。継続的に週2日利用する家庭が二組あり、また、単発の利用者が月平均2名いる。</p> <p><コメント・提言></p> <p>・職員間で地域の子育てニーズや園の専門性を活かした子育て支援、保育に関する講習、研修会等開催について話し合い、取り組んでいくことが望まれます。</p>
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<p>・保育園のサービス内容等を掲載したパンフレットがあり、緑区の「みどりっ子まつり」の際に配布し、園の情報提供を行った。</p> <p>・医療機関、北部児童相談所、緑区役所、北部地域療育センター等必要な関係機関等との連携は園長が担当しており、連絡先をリストにしたファイルを事務所に保管し、職員は誰でも閲覧できるようになっている。</p> <p>・気になる子の対応を学ぶため、北部地域療育センターと密に連絡を取り、巡回訪問を受けて対応策に助言を得たり、緑区家庭支援課とは日常的に連携が取れる体制がある。</p> <p><コメント・提言></p> <p>・育児相談日を設け園正面の掲示板に掲示して地域住民に告知しているが実績はないとのこと。地域住民への能動的な情報発信が望まれます。</p>

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>・夏祭り開催のお知らせを園の近隣に配布し2家族の来園があった。また、1月に実施した餅つきでは、臼と杵を借用した近隣の自治会から3名の参加があり手伝いの協力も得ることができた。</p> <p>・田奈中学校施設借用の申し出を行った際、同中学から要請があり、授業の一環として取り組む職業体験に生徒3名を9月に受け入れた。</p> <p>・幼保小の会議には園長が出席して情報交換に努めるとともに交流を図っている。</p> <p>・11月に開催された「みどりっ子まつり（会場：長津田保育園）」に参加して他園と交流を図るとともに、来園者に園のパンフレットを配布した。</p> <p>・給食の食材は地域との交流を図るために地域の商店街から購入するようにしている。</p> <p>・散歩時の挨拶やマナーについては職員が手本を示し、地域住民との交流に努めている。また、散歩先では他の保育園児との交流も多く、声を掛け合いながら楽しく遊べる配慮をしている。</p> <p><コメント・提言></p> <p>・子どもの視野を広げ社会性を育て、地域で生活しているという実感を持たせるための取組みとして、地域の行事への参加や高齢者施設との交流、地域の文化・レクリエーション施設等の利用への配慮が期待されます。</p>

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



・設置法人のホームページで運営理念、給食への取組姿勢、園行事などについての情報を、写真を交えて提供している。

・保育園のサービス内容等を掲載したパンフレットがあり、緑区の「みどりっ子まつり」の際に配布している。

・利用希望者の電話問い合わせには見学ができることを伝えている。原則、平日での見学をお願いしているが、既に仕事を持っている両親の見学を希望等の場合はそれぞれの状況を勘案して曜日や時間を決めている。

・利用希望者の問合せや見学には園長が担当してパンフレットや「入園のご案内」を使って保育方針を説明している。可能な限り1対1で対応してしっかりと質問に応えるようにしている。園長不在時はその旨を利用希望者に伝え、承諾を得たうえで副園長が対応している。

・「見学カード」に連絡先、保育時間、選んだ理由などを記入して必要な時に連絡が取れるようにしている。

<コメント・提言>

・行政が制作するネット情報、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」、緑区の「子育て・教育」に園の基本情報を提供していますが、行政以外の情報提供媒体には提供がありません。施設が地域の社会資源として機能するためには、施設自らが地域に対して積極的に情報を公開して行くことも必要です。取組みの成果が期待されます。

IV-3 実習・ボランティアの受け入れ



・ボランティアの受け入れや育成は行っていない。

・「実習生受け入れガイドライン」があり、実習生には園長が対応して、園の方針や利用者への配慮等を説明する仕組みがあるが、実習生の受入れ実績がないため、記録の整備や意見交換の機会がない状況にある。

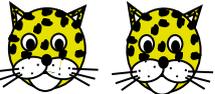
<コメント・提言>

・ボランティアの受入れ実績もなくマニュアルもありません。施設にはボランティアの受け入れを通して福祉の普及や啓発に意識して取組むことが求められています。取組みの成果を期待します。

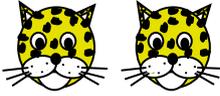
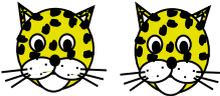
・実習生の受け入れマニュアルはありますが、受入れ実績がありません。施設には実習生の受け入れを通して福祉の普及や啓発に意識して取組むことが求められていますので、取組みの成果を期待します。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っている。 ・人材育成計画の策定や職員の達成度評価は行われていない。 ・園長が「平成24年度年間研修計画」を作成し、常勤・非常勤職員共に内部や外部の研修に参加している。 ・社外研修として、「気になる子の理解と対応、わらべうたを学ぶ」等に参加し、研修受講後はレポートを作成し、今までに2回報告会を行い、研修の成果を発表し、保育に活かしている。 ・非常勤職員にも、必要なマニュアルを配付し、正規職員と非常勤職員の組み合わせなどを考慮して、シフト表を作成している。 ・非常勤職員には、職員会議や園長会議などの必要事項は文書または口頭で知らせており、文書には確認サインをしている。 ・主任やクラスリーダーを非常勤職員担当と決め、コミュニケーションを取る中で意見要望を聞き、非常勤職員が円滑に業務にあたるように努めている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人担当部署の協力を得るなどにより人材育成計画を策定し、個々の職員の個人目標を明確にして達成度評価を行うことが求められます。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="185 174 534 212">V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は日々の保育を振り返り、クラスの職員で話し合ったり、園長や副園長の助言を得ている。園の自己評価は、第三者評価を受審して、非常勤職員も含め全員で自己評価に取り組んだ。 ・園長、副園長、主任が横浜市立や株式会社経営の他園を見学し、サービス事例を参考にして、職員会議で話し合い実践している。 ・年間指導計画の期毎、月間指導計画、保育日誌を定型化し、それぞれに評価・反省の記入欄を設けている。 ・指導計画には、子どもの姿・ねらいを記載し、評価・反省は、子どもの育ちや意欲、取組の経過などに視点をあてて行い、日誌に全員の子どもの様子を記載して振り返り、次回の指導計画を作成している。 ・職員会議や、第三者評価を受ける過程で園の課題を明確にし、全職員で第三者評価の評価項目を活用して運営理念や保育課程に添って各自が自己評価した後、園の自己評価としてまとめている。 ・自己評価の公表はまだ行っていない。 <p data-bbox="715 741 970 772"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人で、外部の保育の専門家を招へいし、指導を受ける取り組みが進んでいるところですので、実現が期待されます。 ・開園1年を振り返り、保育を見直して改善課題を明確にしていますので、全職員で保育目標や保育課程に沿った自己評価に取り組み、その過程や結果を保護者などに公表することが望まれます。
<p data-bbox="185 1077 678 1115">V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されたものはない。 ・園長は可能な限り現場職員に権限を委譲し、緊急時園長不在時には副園長、主任ほか、職員の判断に任せて、事後、園長に報告することとしている。 ・園長は、職員会議で各クラスの改善課題や業務改善の提案などを聞いている。 ・職員面談は、非常勤職員は園長が、常勤職員には設置法人子育て支援事業部部長が行い、1年を振り返っての満足度、要望を聞いている。 <p data-bbox="715 1391 970 1422"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人担当部署の協力を得るなどにより、職員の経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されることが望まれます。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則に法令順守・服務規程が明文化されており、全職員は周知している。 ・設置法人の経営、運営状況等の情報は、ホームページで積極的に公開されている。 ・他施設での不正事案などの情報は、設置法人より随時連絡があり、職員会議で話し合いの場を設けて、職員のモラルアップを図っている。 ・牛乳パック、空き箱やトイレットペーパーの芯などの廃材をストックし、子どもたちの製作や、おもちゃや教材遊具の作成に利用している。 ・職員は節電を心がけ、設置法人の方針「地域社会の環境保全と地球にやさしい事業活動を目指し、一人一人の意識向上をはかるとともに、行動指針を掲げ、環境マネジメントシステムに積極的に取り組んでまいります。」をホームページに掲載している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人の環境に対する方針を園としての行動指針として具体的に掲げ、実行することが期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念・保育目標を玄関に掲示し、昼礼で唱和し、園長は、昼礼や職員会議などで、保育理念や保育目標に基づいたサービスについて説明し、理解浸透に努めている。 ・職員の理念・基本方針などについての理解度は、園長が非常勤職員と面談し、常勤職員については、設置法人子育て支援事業部部長が面談して確認している。 ・園長は、子どもの受け入れ態勢などについて、保護者と継続して意見交換をし、変更点については、保護者に丁寧に伝えている。 ・設置法人子育て支援事業部と連携し、マニュアルの改定や人材育成計画作成などについて取り組む体制になっている。 ・調査時点では人材育成計画はない。 ・副園長は園長を補佐するとともに職員の業務状況を把握してシフト表を作成し、主任は各クラスを見回り、保育全般を把握し、副園長・主任共に職員の指導・助言をしている。 ・主任は特に非常勤職員と食事をとる中で意見や要望を把握し、職員の心身の健康状態に気を配っている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性や質の向上のために、スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムの整備が望まれます。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業経営に影響のある情報の収集・分析は、設置法人が行い、経営する5保育園の園長が定期的に会議を開催し、法人が収集した情報を話し合い、園に持ち帰って職員に報告している。 ・園運営上の重要事項や、第三者評価受審で浮かびあがった重要課題は、職員会議で説明して全職員に周知し、開設園として課題は多いが、園長をはじめとして、園全体で積極的に改善に取り組んでいる。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人の子育て支援事業部と検討し、人材育成計画の策定や、中長期的な展望を持った園独自の計画の作成が求められます。

利用者家族アンケート

結果の特徴

・回収率 世帯総数 34 回収総数 27 回収率 79%

項目別 検討

- ・基本理念 知っている保護者は 74% その回答者は 全員賛同できると回答。

注 下記コメント中の平均満足度は、満足、どちらかと言えば満足 の回答者総数の割合で表示

- ・入園時の状況 見学しなかった保護者は22%。入園に関する園の説明の平均満足度は88%
- ・保育に関する年間計画 平均満足度 87%
- ・日常の保育 遊びについて 平均満足度 93% 項目平均して満足度は高い。
- ・日常の保育 生活について 平均満足度は88%で、保育中のケガへの対応で 不満足度割合22%は検討を要する。
- ・保育園の快適さと安全対策 平均満足度は94%と高い。
- ・園と保護者との連携 平均満足度は83%で、「保護者懇談会・個別面接」の不満度が30%、「送迎時の情報交換」での不満度が19%、「残業などで迎えが遅くなった場合の対応」の不満度が15%(その他を入れると19%)あり、これら3項目については検討を要する。
- ・職員の対応について 平均満足度は87%(アレルギー項目を除くと92%)であるが、「保護者から出る意見要望への対応」の不満度が15%で、自由意見にも対応に対する不満足意見が出ており、検討を要する。
- ・総合満足度は92%であった。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	18%	56%	7%	11%	4%	4%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	65%	35%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	37%	26%	7%	4%	22%	4%
	その他： 見学をしていない保護者の回答。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	33%	44%	11%	8%	4%	0%
	その他：					
園の目標や方針についての説明には	33%	52%	8%	0%	7%	0%
	その他：					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70%	22%	4%	4%	0%	0%
	その他：					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56%	40%	0%	4%	0%	0%
	その他：					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	63%	26%	7%	4%	0%	0%
	その他：					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	41%	48%	7%	4%	0%	0%
	その他：					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	22%	63%	0%	11%	4%	0%
	その他：					

問4 日常の保育内容について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
遊びについて						
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	81%	15%	0%	4%	0%	0%
	その他：					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	70%	22%	4%	4%	0%	0%
	その他：					

園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	67%	22%	4%	4%	3%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	67%	26%	4%	3%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	63%	30%	0%	4%	3%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	59%	37%	0%	4%	0%	0%
	その他:					

生活について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	85%	11%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	85%	11%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	70%	22%	4%	0%	4%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	81%	15%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52%	11%	11%	0%	26%	0%
	その他:					
お子さんの体調への気配りについては	74%	19%	4%	3%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	56%	22%	15%	7%	0%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	63%	33%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	67%	26%	7%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	70%	22%	4%	4%	0%	0%
	その他:					

感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	81%	8%	11%	0%	0%	%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	37%	26%	22%	8%	7%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	59%	30%	0%	11%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	67%	22%	11%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	48%	33%	11%	8%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	59%	30%	4%	4%	0%	3%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	67%	19%	11%	3%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	59%	22%	4%	11%	4%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	70%	26%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	81%	15%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37%	30%	0%	0%	33%	0%
	その他: 食物アレルギーの状況と対応が良く分からない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	59%	33%	4%	4%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	44%	41%	8%	7%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	55%	37%	4%	4%	0%

明日葉保育園長津田園

◇0歳児

・食事

園庭で砂遊びをしている子どもが、月齢の低い順に一人ずつ園庭に面している入口から呼ばれ、よごれた洋服を着がえさせてもらって手洗いをすませ、テーブルにすわる。泣いてぐずっている子は、職員に抱かれて配膳が終わるのを待っていたが、職員から「お腹ぺこぺこなの？先食べようか？」とイスに下ろしてもらい、一番最初に満足そうに食べ始めた。

食事は一斉ではなく、月齢に応じて少しずつ時間をずらし、数人ずつ順々に「いただきます」をして始まる。トレイには、茶碗、お椀、皿、スプーンが並んでいる。一人の子は挨拶も待ちきれず座ってすぐ手づかみで食べ始めた。職員に、「いいよ、お手で食べて」と言われ、「にこっ」として食事を始める。他の子ども達も、上手にスプーンを使い、職員から「おいし〜」「イス前にしようね」「あむあむ」「おさじさんどこ？上手だね」と声をかけられ、必要に応じて介助してもらいながら食事していた。

・遊び

保育室は、職員手作りの、廃材で制作した花柄のパーテーションで大きく2か所に区切られている。机では、お絵描きに興味が出てきた子どもが、クレヨンで一生懸命なぐり書きをしている。部屋の隅の、段ボールでできたトンネルを覗いたり、くぐって遊んでいる子もいる。ボールを投げたり、眠たい子は職員におんぶされたり、一人一人がそれぞれに遊びを見つけて楽しんでいる様子だった。

・排泄

お尻が汚れた子どもが、沐浴室できれいにしてもらっている。「えーんえーん」と泣いているが、職員に「大丈夫、手もきれい」「あったかい、あったかい」と、話しかけられながら温かいシャワーで洗ってもらい、さっぱりしたようで、泣き声もやんだ。

◇1歳児

・散歩（電車を見に）

子どもたちは「じゅんばんこに手をつないでね」と職員の話聞いて、二人一組になる。一人の子は散歩が嫌なのか、座り込んでしまった。一人の職員が付き、「後で行きます」と他の職員に伝え、ぐずっている子どもと話し合っている。しばらく話していたが、納得したのか、歩き始め、少しずつ追いついて行った。

歩きながら「あるこ、あるこ・・・」と「さんぽ」の歌を歌いながら進む。「いし、いし」と造園業者の庭石を指さしている子に、職員は、「石だね、大きいのかいっばいあるね」と、他の子にもわかるように答えていた。

電車が見えてくると口々に「でんしゃ、でんしゃ」とはしゃいでいる。安全な場所に到着すると、子どもたちは、それぞれに遊び始める。電車が来るのを今か今かと待っていて、通過すると「とうきゅうせん、よこはません」と職員と話している子や、葉っぱを探して見つけ、職員に持ってくる子もいる。小石を集めたり積み上げたり、きれいな石を見つけた子は「おみやげにする？」と職員から言われ、こっくりとうなずいてポケットにしまっていた。

・午睡

4人の子の布団の間に職員一人が入って眠りに誘っている。子どもたちは、順番におなかをトントンしてもらったり、優しくなでてもらって、いつの間にか眠りに入っていた。一人寝つかない子には、最初から一人の職員が付いて小声で話していたが、その子もしばらくすると眠っていた。

◇2歳児

・園庭遊び

2階保育室から外階段を使って直接園庭に出る。階段のある大きな築山、一人で登っては滑り下りている子や、小さい子と一緒に砂場遊びをして子もいる。他の子はタイヤ遊びをしている4歳児をまねて、タイヤに登ろうと一生懸命頑張っている。友達と一緒に並んでタイヤに座ってしばらくなにやら話し込んでいた子たちは、しばらくして「またね」と言ってそれぞれ違う遊びに向かって行った。

・食事

子ども用の木目の汁椀が用意され、箸を上手にを使って食べている。スプーンやフォークも用意されており、子どもたちは、途中で使いやすい食具を選んで食べている。子ども達はゆっくりおしゃべりをしながら食べていたり、肉にかぶりついて噛み切ろうとしたり、自分のペースで食事している。食べ終わった子は、職員からおかわりを聞かれ、指で3を示し、「お肉3個ね」とお皿に盛ってもらっていた。まだご飯や野菜が残っている子は、「お肉おかわり？どうぞ、ご飯も食べてね」「お野菜一口どう？」と言われ、代わる代わる食べていた。

食事が終わった子は歯ブラシを持って手洗い所に行き、歯磨きをする。しばらく磨くと、職員に「仕上げ磨きしようか」と言われ、きれいにしてもらっていた。

◇3歳児・4歳児

・食事

食事を始める準備が整うと、職員が11時30分を示している時計を見て「今日は10にする、11にする、それとも12がいい」と子ども達に問いかけている。子ども達もそれぞれの思いで答え、「じゃ今日は12がいい」と再び子ども達に問いかけ、「いいです」と応じて食事を終える目安の時間が決まった。

食事の最中に一人の子どもが食卓を囲む人の数を声に出して「1、2、3、…」と数え「子どもが5人、先生を入れて6人、おじさんを入れると全員で7人」と発表する。職員が「そうだよね、今日は雪でお休みのお友達が7人もいるから、

今日は寂しいね」と応じている。

おかわりを求める子どもに、職員が「今日は野菜をよく食べるね、海苔が入っているとおいしいね」と問いかけ、その子どもはうなずいている。別の子どもから「おかわり、お肉とお野菜」の声があがる。職員が「お野菜もおかわりするの？すごいね」と褒め、量を確認しながらよそっている。2回おかわりした子どももいておかわりが完食となり、職員が「今日は給食の先生が喜ぶね」と子ども達に語りかけ、子ども達もうなずいている。食事が終わった子どもは、順次、「ごちそうさま」をして食器を下げている。

◇3歳児・4歳児

・歯磨・排泄・着替え・午睡前

食事が終わった子どもは、順次、歯磨きを始める。てきぱきと進める子ども、歯磨用の椅子に並んで座って、笑いあいながら歯磨きをする子ども達もいる。職員に確認や仕上げをしてもらっている。

歯磨きを終えた子どもは、思い思いに隣接するトイレに行って排泄を済ませ、混雑することもなく排泄が終わる。

排泄を済ませた子ども達は、自分一人でパジャマに着替えている。職員がパジャマに着替え終わった一人の子どもに「〇〇ちゃん、たためた？」と聞いている。聞かれた子どもが苦笑いをしながら脱いだ服を入れる袋を振ると、適当に丸めて入れた服がでてくる。その子は服をたたんで袋に入れなおし、職員に褒めてもらった。

◇3歳児・4歳児

・リトミック

子ども達と職員が集まって輪になり、足を輪の中心方向に伸ばして座る。リトミックの先生がピアノを弾きながら「ハロー エブリバディ 〇〇」と子ども達の名前を織り込んで歌い始めると、子ども達は手で膝を打ちながら拍子をとっている。ピアノの音階に合わせて「ミミミ」「ドドド」と声に出し、曲に合わせて部屋いっぱいぐるぐる回り始める。暑くなって上着をテーブルに投げ出した子どもに、職員が目配せをすると、子どもは輪から離れて上着をたたみ輪に戻った。ロンドン橋の曲では、子どもと職員が二組の橋をつくり、子ども達は前の子どもの肩に手を添えて動き出す。ときどき橋が落ち、そのつど歓声が上がる。曲が速くなると子ども達は分散してぐるぐる回る。橋が落ちる前に通り抜けることに夢中になっている子どもや、橋が落ちてつかまってしまうことに興味を持っている子どもがいる。橋の係の子どもも、橋を落とすタイミングを計っている。次は、『Head, Shoulders, Knees and Toes』で、優しく日本語を交えて歌いながら身体の各部を触る仕草をすると子ども達も同様に、歌に合わせて頭や肩を触っている。子ども達には馴染みのプログラムの様で、思う存分身体を動かして楽しんでいた。

第三者評価を受審して

当社にとって初の認可保育所だけに、日頃私たちの行っていることが、ご利用者様にとって満足いくものとなっているのか、また、何か気付いてないことがあるのではないかとの思いから受審を決めました。開園初年度での受審ということもあり、職員の間では不安や戸惑いも大きなものがありました。

然しながら、自己評価を行うことや一つひとつの領域毎に検討したことは、改めて自分の保育と向き合い、考える時間を持つことができたことで、今後の改善点や努力すべき方向性が明確になり大きな収穫だと感じております。

ご利用者様アンケートにて、高く評価していただいた点に関しては、当園の長所ととらえて、今後も継続してまいります。また、満足されていないご意見に対しても真摯に受け止め改善に努めます。

第三者の目から見ていただくことにより、現状の業務の内容でも、文書化されていないものが多いことやマニュアルの見直しの必要性を感じており、今後の課題として取り組んでいきます。さらに、ご利用者様からのご要望等の収集体制を検討し、双方での連携をはかる体制にすることで、サービス向上に繋げ、より良い園づくりを目指します。

これからも利用者様から愛される園、また地域に根差した園になれるよう、全職員で一丸となり日々、努力して参ります。最後にご尽力いただいた、評価機関の皆様、アンケートにご協力いただいた、在園児の保護者の皆様並びに関係者様に心より感謝申し上げます。

葉 隠 勇 進 株式会社
明日葉保育園 長津田園
園長 中西 聡子